

令和元年 第2回  
京田辺市議会定例会

一般質問(質問項目・要旨)

傍聴用

京田辺市議会

## 6月定例会一般質問日程

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
6月24日 (月)	1	はしもとよしゆき <b>橋 本 善 之</b> (自民一新会)	1
	2	あきづきけんすけ <b>秋 月 健 輔</b> (京都南風の会・日本維新の会クラブ)	2
	3	きくかわかずしげ <b>菊 川 和 滋</b> (NEXT京田辺)	3
	4	おかもとりょういち <b>岡 本 亮 一</b> (日本共産党京田辺市議会議員団)	5
6月25日 (火)	5	つぎたのりこ <b>次 田 典 子</b> (無 会 派)	7
	6	むこうがわひろし <b>向 川 弘</b> (公 明 党)	9
	7	よしたか ゆ か こ <b>吉 高 裕 佳 子</b> (無 会 派)	11
	8	うえだたけし <b>上 田 毅</b> (京都南風の会・日本維新の会クラブ)	12

月 日	通告順位	議 員 名	ページ
6月27日 (木)	9	ますとみりつこ 増富理津子 (日本共産党京田辺市議会議員団)	13
	10	なんぶとしこ 南部登志子 (無 会 派)	16
	11	えのもとかうすけ 榎本昂輔 (自民一新会)	18

※質問時間は、質問答弁併せて60分以内としています。

### 1 自然災害について

- (1) 自然災害の教訓を踏まえ本市における具体的な防災・減災、強靱化対策について問う。
- (2) 災害時における行動規範として「自助、共助」は初期対応として非常に重要である。その観点での市としての対策は。
- (3) 市街地を流れる天井川や住宅地を見下ろす位置に設置されている農業用ため池は豪雨、地震時には非常に危険な構造物である。防災上の観点で今後どのような対策が必要と考えるか。

### 2 交通弱者対策について

- (1) 大津市や池袋での自動車事故は京田辺市でも起こりうる。庁内で本件に関してはどのような議論を行っているのか。
- (2) 市道草内薪線や府道八幡木津線、市道興戸三山木線など自動車と自転車、歩行者が混在する道路では将来的にどのような道路空間整備が重要と考えているか。

### 3 自然災害や交通弱者対策などに関する庁内議論の重要性について

- (1) 庁内部局それぞれの所掌事務が融合し連携されて社会の安寧が築かれるものであると考えますが市の認識は。
- (2) 市民の安寧を維持するには市民目線の取り組みが重要である。市民自身が行政任せではなく市民自らが考え行動するには庁内議論の段階から市民参画も重要な要素の一つであると考えますが市の認識は。

**1 各種統計調査において適切な処理を継続するための本市の取り組みは**

- (1) 近年統計データの取り扱いの重要性が高まっているが、本市の市民満足度の調査をはじめ、本市の統計調査を行う際に留意している取り組みやルール、ガイドラインがどのように整備されているのか問う。
- (2) 統計を適切に取り扱うに当たって様々な注意点があるが、例えば高齢者所在不明問題に関して、本市がどのような考え方及び取り組みを行っているのかを問う。
- (3) 民間に委託するなどといった行政のスリム化が叫ばれている昨今においても、統計のために必要な基礎データは個人情報等も多く含まれる故に、外部委託等することは業務の性質上適切ではない。そのため本市でも統計関連の部署について現体制の拡充を考えなければならない時代になっているはずであるが、本市の認識を問う。

**2 S T E A M人材の育成・定着化について本市の取り組みは**

- (1) 国際競争力を持った人材育成がニーズとして高まっているが、S T E A M人材育成における本市の取り組みについて問う。
- (2) 小学校から必修化されるプログラミング教育に関しては、各市区町村のやり方に任せる方針であるとガイドラインが打ち出されているが、本市がこれをどのように考え実践していく体制を整えていこうとしているかを問う。
- (3) 上記の育成した人材を地域で循環させ、創造的な人材が地域に定着化するために本市がどのように取り組もうとしているかについて問う。
- (4) スーパーサイエンスハイスクール(S S H)制度に関して本市ではどのように考えているのかを問う。

**1 安心安全のまちづくりについて**

## (1) 防犯カメラ増設について

- ア 今後、市で設置する場所は
- イ 自治会独自で設置する際のガイドラインや市の補助金の考えは
- ウ 防犯カメラ設置場所における「カメラ作動中」の表示の考え方は
- エ 自動販売機を活用した防犯カメラ設置の考えは

## (2) 地域防災への取り組みについて

- ア 自主防災組織の設置状況と今後の取り組みについて
  - ・現在の設置状況と活動内容について
  - ・未設置自治会に対する、市としての指導助言について
- イ 防災士資格取得に対する市からの補助について
  - ・現在の取得者数と活動内容について
  - ・市として取得者拡大への取り組み方策と目標値について
  - ・防災士取得者の更なる育成と、その活用方法について

## (3) 災害発生時における市職員の参集計画と人員等について

- ア 災害時における市職員の参集についてどのような仕組みとなっているのか。
- イ 避難場所における、災害備蓄の在り方について
- ウ ガソリン備蓄はできているのか。またガソリンスタンドとの協定はどうか。
- エ 水害想定地域の市民の避難所についてどのように考えているのか。
- オ 避難所におけるTKB（トイレ、キッチン、ベッド）の確保について
- カ 危機管理体制の充実に向けた組織の在り方について

## 2 体育館における空調について

指定避難所となる小・中学校の体育館や、スポーツや市の各種行事開催場所として、さらには全国小学生ハンドボール大会が開催される中央体育館について、空調設備の導入をどのように考えているのか

## 3 今回の統一地方自治体選挙を終え、投票率の更なる向上に向けた取り組みについて

- (1) 市として今回の投票率をどのように捉え、さらに投票率を向上するための課題等はどのような認識であるか。
- (2) 期日前投票所の増設や、現行投票所の場所の再検討などをすべきではないか。

### 1 子どもの医療的ケアについて

(1) 平成28年、国において児童福祉法が改正され、医療的ケア児の支援に関する保健・医療・障害福祉・保育・教育等の連携推進が努力義務とされた。

本市でも、保育所・幼稚園・小中学校に医療的ケア児を受け入れる体制を整備すべきと考えるがどうか。またその認識を問う。

(2) 医療的ケア児が保護者の付き添いがなくても普通学校に通えるよう、学校看護師の配置（巡回制度）を求める。

### 2 中学校給食について

(1) 中学校給食実施に向けて設置された「中学校給食庁内検討委員会」において、センター方式の導入を軸として検討が進められ、昨年度にその基本的な構想がまとめられている。その検討内容について市長の見解を問う。

(2) 中学校給食の実施方法については、小学校と同様の市直営による自校調理方式を基準に検討すべきと考えるがどうか。

### 3 学校施設整備と通学区域について

(1) 平成31年度一般会計当初予算において、年々児童数が増加する三山木小学校の教室不足を解消するため、仮設校舎を設置するとなっている。

平成28年3月には児童増加に対応するため、三山木小学校西校舎



が完成したばかりだが、なぜこのような事態になったのか。その認識を問う。

- (2) 今後、同小学校の児童数増加により、田辺中学校の教室不足が懸念されるが、どう対応されるのか。
- (3) 多くの保護者から、同小学校区が田辺中学校と培良中学校に、それぞれ通学区域変更されるのではとの不安の声がある。市の見解を求める。

## 1 新市長に問う

- (1) 市長はどのような町をつくろうと考えているのか又、市民への広報  
広聴はどのように行うのか。
- (2) 平和首長会議での積極的活動をする必要があると考えるがどうか。
- (3) 北陸新幹線新駅設置について、多くの市民は反対あるいは慎重さを  
求めているが、市長の考えはどうか。国・府に言うべき事を言えるの  
か。
- (4) 多様性が受け入れられる社会を築くために何が必要と考えているの  
か。
- (5) 市長は市民の安全を守るために大飯、高浜、美浜原発はもちろんの  
事、全ての原発に対し停止を求めるべきだと考えるがどうか。
- (6) 枚方市とのゴミ処理広域化について、京田辺市民の受ける被害や損  
益が大きいと考える。専門家の意見を聞きながら、見直しも含め精査  
すべき点があると思うがどうか。
- (7) 2016年に教育機会確保法が成立している。夜間中学の必要性を  
認識しているのか。
- (8) 不登校・引きこもりの人数が増えている。実態調査を行い、対応を  
求める。
- (9) 子どもの命を守るために見守りを増やしたり、安全教育の充実をは  
かるため、予算を投入すべきだと考えるがどうか。

## 2 性犯罪被害者救済を急ぐべきだ

- (1) 性犯罪被害者を救済するために市が現在行っている事は何か。
- (2) 被害は男女・年齢に関係なく増えている。被害実態の認識はどう

か。

- (3) 被害者の中には子どもも多い。学校・教育委員会の対応はどうか。
- (4) 啓発活動の充実をすべきだ。
- (5) 市職員・相談員・教員等の研修の充実をすべきだ。

**1 市民の命を守る政策について**

- (1) 災害時、避難所ともなる小中学校体育館へエアコン設置をすべき。
- (2) 通学路や幼稚園の散歩コースなどの安全対策を強化せよ。(防犯カメラ設置・防犯灯・グリーンベルト・交差点など)
- (3) 胃がん検診時にピロリ菌検査を追加すべき。

**2 2019年10月から実施予定の幼児教育・2020年4月から実施予定の高等教育の無償化について**

具体的手続きの時期と内容および周知徹底などを問う。

**3 地域猫殺傷ゼロについて**

地域猫の避妊手術の補助金助成を実施すべき

**4 中学校給食について**

実施時期、実施方式および昼食時間の適正化について問う。

**5 交通弱者への移動支援について**

- (1) 交通弱者への支援施策を実施すべき。
- (2) 市民要望によるバスの本数増加をバス会社に要望すべき。
  - ア 松井～新田辺駅間のバスの本数増加をバス会社に要望すべき。
  - イ 松井山手駅～京田辺市役所間のバスの本数増加をバス会社に要望すべき。

- (3) 市民要望によるバス料金値上げの負担緩和のために市として補助すべき。

京阪バスの4月の料金改定により一部区間で25%もの値上げとなっており市民生活への影響が大きい。これを緩和するため京田辺市として補助すべき。

### 1 幼児教育・保育の無償化について

10月から実施予定の幼児教育・保育の無償化の影響について、課題や必要な対策について問う。

- (1) 現在の市の現状は。
- (2) 今後のスケジュールは。
- (3) 市の負担額は。

### 2 中学校給食の実現、また安全安心な給食の実現について

- (1) 市長の公約にもあった、中学校給食の実現に向けて、市長の見解を求めらる。
- (2) 持続可能な開発目標「SDGs」の実現に向けて、京田辺市でも学校給食の地産地消率を高めると共に、有機農産物の使用を進めていくことを提案する。

### 3 放射線副読本の配布について

去年10月に、小中高生向けの放射線副読本が文部科学省から各学校へ配布要請がありましたが、教育委員会の対応について時系列での説明を求めらる。

### 1 (仮称) 南部住民センター及び南部消防署建設について

令和元年と共に上村市政となった訳だが、(仮称) 南部住民センター及び南部消防署建設計画をぜひとも進めて頂きたい。

(仮称) 南部住民センター・南部消防署建設基金を設ける等、検討していくべき。

前市長には何度となく 8 年間言い続けて参ったが、上村市長はいかがお考えか見解を問う。

### 2 コミュニティバスの導入について

現在、打田・高船・天王の山間地を含む普賢寺地区において公共バスは午前と午後の 2 便だけであり、またそのバスのサイズも大型である。

もっとバスを小型化し、打田・高船・天王などの普賢寺地区だけではなく、特に高齢者や子供たちを対象に交通需要に合わせたコミュニティバスの導入が必要であると考えます。市の見解を問う。

### 3 中学校での選択式注文弁当について

平成 23 年 6 月議会において私が提案させて頂き、25 年度から開始実行して頂いた中学校の選択式注文弁当について、注文数が減少している。

完全給食になるまで、まだまだ年数がかかるため、中学生や保護者から届いてる問題点を聞き入れてはどうか。

問題点を解消すれば完全給食になるまでのお助けとして、もっと注文が増えるのではと保護者の声が届いている。市の見解を問う。

## 1 安全、安心なまちづくりについて

- (1) バリアフリー基本計画の発展、見直しの必要があると考える。ハード・ソフト両面での施策の展開をどのように図ろうとしているのか問う。
- (2) 安全安心な道路や環境づくりへ、今年度取り組まれる生活道路の改修計画について問う。
- (3) 市役所の出入り口である国道307号では上下線に停車車両が多く発生している。市役所前の交通安全対策について問う。

## 2 加齢によって起こる難聴に対して、補聴器購入の助成制度を

高齢化に伴い、耳が聞こえにくくなって仕事や社会生活に困る高齢の難聴者が増えている。また、加齢による難聴は日常生活を不便にし、生活の質を落とすだけでなく、うつや認知症の原因にもなることが指摘されている。

しかし、補聴器は高く、保険適用でないため全額自費となっている。身体障害者手帳が交付される高度・重度難聴の場合には支給制度はあるが、その対象者はわずかで、約9割は自費で購入しているということから、使用している人は10%~20%といわれている。特に低所得の高齢者の方々にとっては切実な問題である。他自治体で既に一部助成を始めているところもある。

国や府への公的補助制度の創設を求めるとともに、京田辺市でも助成制度を検討していく必要があると考えるが市としての考えを問う。

## 3 近鉄新田辺駅東地域の整備と活性化について



- (1) 住宅街に接した商店を持つ地域であるだけに、自分の住んでいるところから歩いて買い物ができるライフエリア構想、生活圏構想が必要ではないか。高齢化し、また障がいをお持ちの方などからも要望が出ている。東地域のまちづくりの市の考えを問う。
- (2) 安全安心な道路や環境づくりへ、バリアフリー基本法に沿った取り組みの拡充を。地権者の方や商店主の方への意見なども聞くと同時に、利用者の意見も反映させられる場を設定する。市民参画のまちづくりを。
- (3) 空き店舗や店舗前のスペースの活用、この方法などについても市民ニーズをしっかりと把握したものにしていくべき。
- (4) 近鉄新田辺駅東口に、障がい者も安心して乗り降りできる駐停車場の設置を。

#### 4 子どもの権利条約に基づいた、子ども施策の充実を

2019年は、すべての子どもに人権を保障する「子どもの権利条約」（児童の権利に関する条約）が国連で採択されてから30年にあたる。11月20日の「世界子どもの日」は、国連で「子どもの権利条約」が採択された日です。

子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約で、18歳未満の児童（子ども）を権利をもつ主体と位置づけ、おとなと同様ひとりの人間としての人権を認めるとともに、成長の過程で特別な保護や配慮が必要な子どもならではの権利も定めている。子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定しているものです。

しかし、今も子どもをめぐる問題はあとをたちません。虐待、貧困、発達保障、安心して学び、子育てできる環境が作られているのかが、大人に問われている。

- (1) 市としての「子どもの権利条約」に照らし、子ども施策の取り組み

の状況と基本的考えを問う。

- (2) 留守家庭児童会・保育所・幼稚園での待機児童は、年度を通じて解消するよう施設と体制の確保について問う。
- (3) 小中学校の各体育館は災害時の指定避難所となっている。また夏の猛暑への対策という面から、各体育館にエアコンの設置を求める。
- (4) 条約の市民への周知徹底について問う。

**1 統一地方選挙を振り返って**

- (1) 先の統一地方選挙結果を踏まえ、次の点について市長の認識を問う。
- ア 今回は8年ぶりのダブル選挙となったことに加え、市議選の候補者が大幅に増加したことが特徴的であった。また、選挙権が18歳からとなったが、投票率は53.65パーセントにとどまっている。この結果についての認識を問うとともに、投票率向上に向けての対策を問う。
- イ 投票率が有権者の約半数、市長選の得票数もほぼ半数ずつという結果を踏まえるならば、新市長に対する有権者からの支持はおよそ四分の一になる。この点についての認識と今後の課題について問う。
- (2) ポスター掲示板の設置場所とその位置について、改善が必要と考えるが、市の見解を問う。
- (3) 立候補者説明会の開催日を早めるべき。

**2 聴覚障がい者が安心して暮らせるまちづくりを目指して**

- (1) 手話言語条例の制定を求める。
- (2) 駅員不在の鉄道駅での切符購入について、対策を求める。
- (3) 手話通訳奉仕員養成講座終了後のあり方について、さらなる工夫を。

**3 外国人居住者も安心して暮らせるまちづくり**

- (1) 災害時外国人サポーターの養成を求める。
- (2) 外国人児童や生徒への包括的支援や教育現場での指導体制の確保が必要と考えるが、市や教育委員会の認識を問う。

#### **4 通学路の安全確保について**

- (1) 市内全域の危険場所を早急に確認し、安全対策を図るとともに、防犯カメラの設置を求める。
- (2) 子どもたちに対しては、これまでの交通安全教室だけではなく、身の危険を知るための教育が必要と考える。教育委員会の認識を問う。

#### **5 職員・議員の旅費の取り扱いについて**

- (1) 現在、旅費のうち宿泊料は、定められた金額の渡し切りとなっている。実費支給にすべきと考えるが、監査委員の見解を問う。
- (2) 議会の各委員会視察では、議員と随行職員の旅費は、交通費や宿泊料と日当を合算した上で等分に精算されているが、宿泊費や日当が異なるため、等分に精算されることは適切ではないと考える。監査委員の見解を問う。

## 1 公共交通について

### (1) 山手幹線の渋滞解消について

現在、山手幹線が渋滞することで住宅地内部へ車が流入し、騒音や交通事故・トラブルといった問題が市北部で深刻化している。山手幹線の渋滞緩和施策について具体的な対策と予算案について問う。

### (2) バス交通の充実について

新規住宅地の開発や高齢者の免許の返納が進む中、バス交通の充実の必要性は高まっている。約30年間、民間企業任せで運営を行っているが、バス交通の拡充に時間がかかっている。現在の体制を継続して行うのか、市として運営を行う新たな路線を開拓するのか、市の考えを問う。

### (3) 電車交通の充実について

JR三山木駅の電車本数が充実していないことから、京田辺駅まで車通勤を余儀なくされている住民の方が多くいる。人口が年々増加しているにも関わらず、20数年前と変わらず、30分に1本という少ないダイヤである現状を踏まえて、今後の取り組みは。

## 2 京田辺市のブランディングについて

各市町村（例 熊本市・宇都宮市等）ではブランド戦略室を開設し、農産品や特産品、まちの特色を発信するといった取り組みを行っているが、京田辺市において、まちのブランディングの取り組みについて、市の考えを問う。